

【3－1】日常生活支え合い実践事業

地域支え合い体制づくり事業 (勝山市)

基礎情報

実施地域	勝山市荒土町境区
実施主体	勝山市荒土町境区
所在地	勝山市荒土町細野108-5
代表者	区長 山内 博



平成23年度の事業概要

平成23年7月に境区自主防災組織を設立し、防災ばかりでなく地域全体の支え合い事業を始めた。

- ① 11月には待望の中型除雪機（10馬力）を購入し、12月に区民全員が使用出来るよう訓練を実施した（地域支え合い体制づくり事業）
- ② 各家にヘルメット一個を備え付けた（自主防災組織備品購入事業）
- ③ 区としてエンジンチェーンソーを購入した（自主防災組織備品購入事業）
- ④ ひとり暮らし高齢者世帯等に対し、除雪機による除排雪及び見守りを実施した

現在の活動状況

平成23年度は12月下旬より、平成24年度及び平成25年度は12月より高齢者宅、ひとり暮らし宅、空き家等の除雪、見回りを実施。

また、各班長は従来から存在する区の組織を利用し、広報を月2回ある配布時にポストへ入れるのではなく、一声かけて手渡しし、安否の確認を実施した。

4～11月は区民全員が自家野菜を栽培しているため、畑の管理時や栽培方法等話の中から区民全員の安否確認を実施している。

事業の実績、成果

除排雪に取り組むことで、自力での除雪が困難な高齢者世帯、障害者世帯、空き家等の区民の安心や安全の確保ができ、さらに、平時における見守り活動につながり、共助機能も向上し自主防災組織、支え合い事業ばかりでなく、区全体としてのまとまりが出てきて、鳥獣害対策、農地水事業、中山間地事業、集落センター修繕事業等にも取り組む事ができ、大切な地域の絆づくりが進んだ。

工夫した点

地区は豪雪地帯であり、過疎地域でもあるため、昔有った絆を復活するにはと思っていたところ、自主防災組織備品購入事業や地域支え合い体制づくり事業を知り、ヘルメットの購入、除雪機の購入により、作業の安全、地区の絆体制づくりに結びついた。



事業の財源

- ・ 自主防災組織備品購入事業
→ 20万円
- ・ 地域支え合い事業（県補助金）
→ 75万円

課題

境地区は豪雪地帯であり、一晩で40～50cmの降雪があり、二日も続けば70～80cmになるため中型除雪機では小さ過ぎた、大型除雪機（18馬力以上）が必要である。

今後の目標

地区の見回りや自力での除雪が困難な高齢者世帯、障害者世帯、空き家等の区民の安心や安全の確保はもちろんの事、防災（特に雪害）対策に対し、コミュニティ助成事業等を利用し地域の防災機器の整備を実施したい。



団体からのメッセージ

除排雪等、雪の心配がないよう、みんなで力をあわせて、年をとっても安心して住み続けられるような集落を目指したい。